

平成23年度「日本／ユネスコパートナーシップ事業」  
 ユネスコスクール地域交流会in金沢  
 参加（発表）報告書

提出日 2011年 9月 23日

1. 学校基本情報

学校基本情報Ⅰ				
ふりがな				
住所	〒 920 - 0207 須崎町チ42番地 石川県 金沢市			
連絡先	TEL	076 - 238 - 2034	FAX	076 - 237 - 1432
	E-MAIL	<a href="mailto:asanogawa-e@kanazawa-city.ed.jp">asanogawa-e@kanazawa-city.ed.jp</a>		HP <a href="http://www.kanazawa-city.ed.jp/asanogawa-e/">http://www.kanazawa-city.ed.jp/asanogawa-e/</a>
ふりがな	かなざわしりつあさのがわしょうがっこう			
学校名	金沢市立浅野川小学校			
ふりがな	ひがし みのる			
学校長名	東 実			
ユネスコスクール 加盟時期	2009 年 4月			
ふりがな	にし の さとこ			
発表教員氏名	西野 聡子			
役職	教諭	担当教科・ 学年	2年	
学校基本情報Ⅱ				
学校の教育目標と その説明 (300字程度)	<p>「未来を見つめ 心を拓く」を教育目標と設定し、校訓「強く・正しく・優しく」を柱に学校像と児童像、教師像の3つの視点から目標にせまるよう日々教育実践にあたっている。学校像においては「心身ともに健やかな児童の育成を図ることができる学校」をめざし、児童、児童、教師、保護者、地域住民とが信頼関係を深め、保つことにより学校の教育力と教師の指導効果を高める。「児童像」においては「すすんで学ぶ子」「思いやりのある子」「健康で明るい子」を掲げ、生徒指導の三機能を生かした育ちの見える教育を実践する。「教師像」においては「魅力ある授業」「研鑽する心」「信頼される姿」をめざす。</p>			
地域の特徴とこれ までの活動実績 (500字程度)	<p>本校は、金沢市の北部に位置し、昭和58年4月に開校した。全校児童は379名、教職員は24名である。学校のすぐそばには浅野川が流れ、40年前までは、各集落に水路を引き、川を生かしながら生活してきた。またこの地域は、絶滅したオニバスのかつての生息地であり、今絶滅のおそれのあるミズアオイも生息している。その中で子ども達は、自然と共生する難しさ大切さを、地域の人々の温かい協力を得ながら学び、豊かに感じる心と地域の伝統を重んじる心を養っている。</p> <p>2009年にユネスコスクールに加盟し、2010年から「大好きな校区・じまんの金沢を広めよう ～地域へ、世界への発信を通して～」のテーマを掲げ、全校で生活科や総合的な学習の時間を中心に活動している。1～3年生は、主に他学年、家族や地域とのつながりを大切にしながら、校区の自然を観察することで、環境を守る取組を行っている。4～6年生は、地域との交流や、国内や国外の学校間交流を行いながら、自分達の町の伝統や文化の良さを捉え直し、守っていこうとする取組を行っている。</p>			

2. 今回、交流会で発表された学校でのESD活動について下記にまとめてください。

<p>活動 タイトル (30字以内)</p>	<p>大好きな校区・じまんの金沢を広めよう ～地域へ、世界への発信を通して～</p>			
<p>目的 (300字程度)</p>	<p>本校の研究テーマ「生き生きと表現する子」をめざすために、ユネスコスクールとしての探求的な学習を絡め、人と社会、人と自然、人と世界などとの関わりについて学び、自己の価値観や生き方を見直し、持続可能な社会の構築に向け行動できる児童の育成を図る。そのために「知る」「かかわる」「考え行動する」「広める」の4つの学習活動を意識し、「知りたい」という児童の思いから始まり、そのために「自分のできることは何か」など、児童が自ら考え、追究した内容を具体的に、相手意識をもって広めたり、これからの自分の生き方に生かしていく実践力を1年生から6年生までの全校で養う。</p>			
<p>対象学年・対象者</p>	<p>1.2.3.4.5.6年</p>	<p>対象人数</p>	<p>379名</p>	<p>教科・ 課外活動 生活科・総合的な学習の 時間</p>
<p>内容 (スペースは自由に 広げてください) (800字以上)</p>	<p>1年生は、「なかよしいっぱい・みんなだいすき」をテーマに、春にクラスや同学年で、そして異学年の友達とのなかよしになるための交流を生活科の単元に絡めて行った。その後、生活科での学びを経て、地域のお年寄りから昔遊びを学び、本校に入学予定の年長さんを招いての交流会を行った。学校にはたくさんのお好きな人や夢中になることがあることを知り、それを、お兄さんお姉さんとして、来年度の入学を楽しみにしている年長さんに知らせることで、自分達の大好きな学校生活を紹介することができた。また同時に、一人ひとりがもっと学校生活を楽しくするためにどんなことをしたらよいか、どんな風に過ごせばよいか、などを児童自らが考える場となった。</p> <p>2年生では、「みんなあつまれ、やっほっほい」をテーマに、生活科の単元の発展として取り組んだ。校区の自然に思い切りふれ、ものづくりを行った後、不要になった物を使っておもちゃ作りを行い、その楽しさや作り方、遊び方などを異学年に伝え、交流活動を通して、もっと工夫したり、他の創作活動へと発展させた。またこの活動から、普段何気なく捨てていた物に対し、活用できる可能性や、愛着感、また物を大切に作る心が育ち、改めて自分達の生活を見直す態度が育った。</p> <p>3年生では「浅野川小学校ワールド みんなで自然博士になろう」をテーマに地域にいる生き物について調査を行い、その内容を生き物マップや絵手紙などで表現し、地域や保護者、他学年の友達に広めることを通して、校区で絶滅しそうなる水葵などの植物を守るためにどんなことができるかを考えることができた。昔は水路であった校区のあちこちにオニバスが生息していたことを地域の方から学び、自分達の校区の特徴や、校区に対する愛着をもつことができた。</p> <p>4年生では「伝統工芸のまち・かなざわ」をテーマに、金沢市や石川県の伝統工芸を社会科の単元と絡めながら調べた。日本一の生産額を誇る金箔工芸の学習から、「金箔はり」を体験し、伝統工芸品の良さや守ることの大切さに気づき、その良さを広めたいという思いをもつことができた。</p> <p>5年生では「地産地消加賀野菜」をテーマにし、加賀野菜の良さを知るために「育てる」「調べる」「食べる」の体験学習活動を行い、その間に農業国であるカナダの小学5年生と、食糧生産の実態とその課題や問題点の交流を行い、資料や本などには書いていない生の情報をじかに得ることができた。また、生産の苦労やその楽しさや充実感などをそれぞれの国で野菜の生産の様子や収穫の野菜について、1枚の大きな壁画にして表し、学習内容や交流内容を形にして残すことができた。</p> <p>6年生では「じまんの金沢を調べて、台湾に発信しよう」をテーマにし、自分達の町、金沢のすばらしさを実際に歩いて体感し、金沢が伝統や文化を大切にしていることを、金沢を訪れる人数の多い台湾の国の小学生に伝える活動を行った。テレビ会議システムを利用した、直接行う対話や、英語によるメール交換、交流相手と一枚の大きな壁画を仕上げる活動を通して、自分達のふるさとである金沢を捉え直すと同時に、交流相手の町のすばらしさを認め、文化の違いのおもしろさにも気づくことができた。また同時にこれらの活動を通して、どの学年でも相手意識を明確にしたことから、自分の思いから生まれることばや、それを助ける動作や具体物を使っての表現力も育った。</p>			

- \*①学校内でESD、ユネスコスクール関連の連絡会議がありますか。 (はい)・いいえ)
- \*②ESDカレンダーを作成していますか。 (はい)・いいえ)
- \*③活動の実施に当たり、外部の方の協力を得ていますか。 (はい)・いいえ)
- \*④活動の結果、生徒の行動や思考に変化が生じていると感じますか。 (はい)・いいえ)
- \*⑤活動を通して先生ご自身が新たに気づいたことがありますか。 (はい)・いいえ)

⑥上記の活動を通して、先生が発見したこと、生徒の感想や保護者、地域の方々の声、先生のご感想などを自由に書いてください。

1年生の実践では、生活科でもつ、友達、異学年、家族や地域などの相手意識や目的意識が、ユネスコスクールの実践活動によって、より具体化し、常に児童自身が地域の年長さんとの交流活動などを通して「来年度は入ってくる1年生と、こんなことをしたい」という具体的な見通しを持つ持続的な学習活動が可能となった。6年生の実践では、これまで5年間で学んだ表現力を使って、追究した内容を、誰に、なんのために伝えるかについて、これまでの総合的な学習の時間での内容より、児童が、より深化した意識で取り組むことができた。英語の学習を生かし、卒業を前に、ふるさと金沢を大切にしたい思いと自分達の大切なものを外国の同年代の、交流した小学生に伝える楽しさを実感し、自分の大切な町を捉えなおすことができた。

\*①～⑤について

平成22年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」学校&みんなのESDプロジェクト活動報告書『ひろがりつながるESD実践事例48』（P.159）をご参照ください。

### 3. コメント

この地域交流会の参加を通して、先生が発見したこと、ご感想やご意見などを自由に書いてください。（500字以上）

金沢市の参加が多い中で、他県の方々のご実践をお聞きすることができてとても参考になった。また、教師という立場だけでなくさまざまな分野の方々のご参加により、ユネスコスクールの理念が、これからの社会をよりよく生きるために必要な「持続発展教育」のあり方を一番最初に考えていく必要があると感じた。児童が見つけ、調べ、知ったことを、自分達の生活に生かしたり、広めたりする活動の中で、目的意識だけでなく、相手意識も明確にする必要がある。その際、ユネスコスクール認定校同士の交流は不可欠であると感じている。ところが、Web上に、学校名が提示してあっても、その学校とどのように情報を交換したり、学校間で交流したりすることがどこまで可能なのかは、その学校一つ一つに尋ねなければわからない状況である。発信し、広めあうことが大切ならば、それをコーディネートし、支援していく組織が必要であると、地域大会でじかにユネスコスクールの先生方と交流して痛感した。ぜひ、メーリングリスト等の形でよいので、具体案を提示する機関の創設を願います。このような機会をこれからも設けてくださるよう、お願いいたします。ACCUの組織の方々への運営にあたり、深く感謝申し上げます。